

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(公財)東京都予防医学協会
予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1-2
保健会館 電話 03-3269-1131



http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行



今月の主な紙面

- (1面) ●子宮頸がん検診 HPV併用検診の有用性
- (2・3面(見開き))
 - HPV併用検診 検証事業に期待すること
 - 連載 展望—健康づくり 第2回
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 健康相談ビフォー・アフター 第12回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士からのアドバイス
- (4面) ●日本臨床細胞学会 細胞診60周年記念式典
 - 最近増えている加齢黄斑変性
 - ALCA だより 第5回
 - 歯と口の健康週間 6月4~10日

子宮頸がん検診 HPV併用検診の有用性

東京では八王子市が研究に協力 細胞診との比較で効果を検証

近年、子宮頸がんの主な原因がヒトパピローマウイルス(HPV)であることが解明され、子宮頸がん検診のあり方も変わろうとしている。国内外の研究で、これまでの細胞診にHPV感染の有無を調べる検査(HPV検査)を併用すること(HPV併用検診)で、細胞診の精度がより高まる可能性が示唆されている。このため国は2013年、HPV併用検診の効果を検証するための事業(検証事業)を開始した。東京都では八王子市が検証事業に参加し、本会も検査で協力している。この検証事業は、厚生労働科学研究「子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究」と一体となって進められている。今月は、研究代表者である慶應義塾大学医学部の青木大輔教授(写真)に話を聞いた。

—まず、検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 これまで行われてきた細胞診による子宮頸がん検診では、子宮頸がんによる死亡リスクを80%以上減らせることがわかっていますが、近年、HPV検査を併用することで、さらに早い段階で前がん病変や早期がんを見つけることができるという研究結果が、国内外から報告されるようになりました。

—検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 これまで行われてきた細胞診による子宮頸がん検診では、子宮頸がんによる死亡リスクを80%以上減らせることがわかっていますが、近年、HPV検査を併用することで、さらに早い段階で前がん病変や早期がんを見つけることができるという研究結果が、国内外から報告されるようになりました。



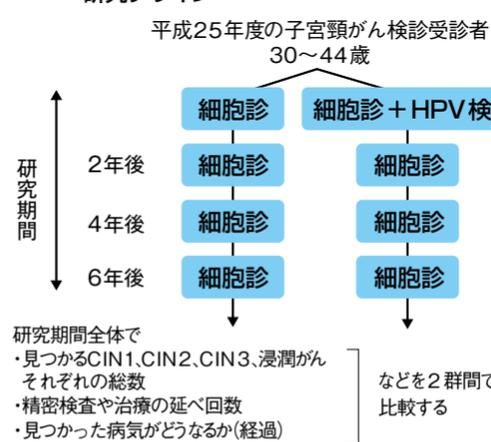
—検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 これまで行われてきた細胞診による子宮頸がん検診では、子宮頸がんによる死亡リスクを80%以上減らせることがわかっていますが、近年、HPV検査を併用することで、さらに早い段階で前がん病変や早期がんを見つけることができるという研究結果が、国内外から報告されるようになりました。

—検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 これまで行われてきた細胞診による子宮頸がん検診では、子宮頸がんによる死亡リスクを80%以上減らせることがわかっていますが、近年、HPV検査を併用することで、さらに早い段階で前がん病変や早期がんを見つけることができるという研究結果が、国内外から報告されるようになりました。

図 「子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究」の研究デザイン



結果的には、その点もみることになると思いますが、費用対効果が先にくる考え方は少し違うと思います。

—死亡率や罹患率以外に、QOLや妊娠能^{※3}についてはどのようにお考えですか。

青木教授 QOLや妊娠能を無視するつもりはないのですが、それをあまりにも強調し、それが主目的になると、過剰診断による不利益も増える可能性があります。

細胞診との比較でそれを見

—検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 この研究への参加不参加は受診者の自由です。不参加により受診者が何らかの不利益を被ることはありません。

また、HPV併用検診を受ける場合でも、採取した細胞を分けて細胞診とHPV検査に使用するので、細胞採取は1回で済みます。

まず受診者のうち、30歳、35歳、40歳(今年度は45歳

—検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 この研究では2年、4年後、6年後の3回、細胞診のみの子宮頸がん検診を受診することになります。その都度、追跡調査が行われ、検査結果や精密検査結果などがフォローされます(図)。

—研究の方法についてお聞かせください。

青木教授 まず従来の方法(細胞診)と比較できる形で、HPV検査の検診手法としての意義を明らかにすることが重要です。

—研究の課題はどのようなところにあるのでしょうか。

青木教授 まず従来(細胞診)と比較できる形で、HPV検査の検診手法としての意義を明らかにすることが重要です。

—検証事業とそれが提起された経緯について教えてください。

青木教授 この研究では2年、4年後、6年後の3回、細胞診のみの子宮頸がん検診を受診することになります。その都度、追跡調査が行われ、検査結果や精密検査結果などがフォローされます(図)。

—研究の方法についてお聞かせください。

青木教授 まず従来の方法(細胞診)と比較できる形で、HPV検査の検診手法としての意義を明らかにすることが重要です。

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康相談コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(公財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

- ※1 感度: 陽性のものが陽性と正しく診断される割合
- ※2 特異度: 陰性のものが陰性と正しく診断される割合
- ※3 妊娠能: 妊娠する能力

CINとは……
上皮内に限局する子宮頸部上皮内腫瘍のことで、CIN1、CIN2はそれぞれ軽度、中等度異形成、CIN3は高度異形成と上皮内癌が含まれる。

